

シンポジウム

「青春と文学」

登壇者 (織田作之助青春賞選考委員)



柏木治 (かしわぎ おさむ)

1956年、和歌山県生まれ。現在、関西大学文学部教授。専門は19世紀フランス文学およびフランスを中心とするヨーロッパ文化論。主要著作として『スタンダールのオイコノミア〜経済の思想、ロマン主義、作家であること〜』、『欧米社会の集団妄想とカルト症候群 少年十字軍、千年王国、魔女狩り、KKK、人種主義の歴史』、『ヨーロッパ人相学 顔が語る西洋文化史』、翻訳としてE・ルモワヌ＝ルッチオーニ『衣服の精神分析』ほか。



堂垣園江 (どうがき そのえ)

1960年生まれ。1994年からカナダに暮し、1996年、講談社「群像」よりボスニアの内戦を描いた「足下の土」でデビュー。その後、ロシア共産党崩壊後の東欧や中国の天安門事件などを取り上げ、1997年からメキシコに滞在。2000年に帰国し、2001年、メキシコを舞台に「生と死」を問う長編「ベラクルス」で野間文芸新人賞を受賞。2015年、「浪華古本屋騒動記」で織田作之助賞を受賞。著書に「うつくしい人生」、「グッピー・クッキー」などがある。



吉村萬壺 (よしむら まんいち)

1961年、愛媛県松山市生まれの小説家。大阪府で育つ。東京都立高校、大阪府立高校(倫理・社会)後、支援学校で勤務。在職中の2001年「クチュクチュバーン」で第92回文学界新人賞を受賞し、作家デビュー。2003年「ハリガネムシ」で第129回芥川賞、2016年『臣女』で第22回島清恋愛文学賞を受賞。2010年(第27回)より、織田作之助賞青春賞の選考委員を勤めている。

聞き手：関根謙 (慶應義塾大学前文学部長・『三田文学』編集長)

挨拶：大石裕 (慶應義塾常任理事)

伊地知克介 (毎日新聞大阪本社学芸部長)

『三田文学』132号掲載
織田作之助青春賞を巡って

目指せ
青年作家!

文学を愛するすべての若者たちへ

主催：三田文学会・慶應義塾大学文学部

後援：織田作之助賞実行委員会 (大阪市、大阪文学振興会、
関西大学、パソナグループ、毎日新聞大阪本社)

対象：高校生、大学生、一般、三田文学会会員

期日：2018年1月22日(月) 18時30分～20時
(開場：17時30分)

参加費：無料

会場：慶應大阪シティキャンパス

〒530-0011 大阪市北区大深町3-1

グランフロント大阪 ナレッジキャピタル

北館タワーC 10階

慶應大阪シティキャンパスMap



北館1階Map



お問合せ：mitabun@muse.dti.ne.jp (三田文学編集部)

※ご予約は承っておりませんので、当日お早めにご来場ください。